

## 昭和35年3月 —60年前の思いで—



旭川市医師会  
旭川高砂台病院

恩 田 芳 和

今年の子年、詳しくは「庚子」（かのえね）です。干支は十干十二支の組み合わせで60種類あり、60年で元に戻ります（10干×12支の組み合わせが120ではなく60なのは、お調べください）。それを還暦と言います。一般には60歳の時に還暦のお祝いを行います。今年が2020年ですから、60年前の庚子は1960年。昭和で言うと35年です。

当時私は小学5年生で、札幌の小学校に通っていました。当時の札幌は高度成長の入り口にあり人口も増え続けていましたが、いまだ50万人前後で、舗装されていない道も多く、砂埃や、雪解け時のぬかるみも当たり前でした。札幌の「馬糞風」が有名ですが、私が最初に通っていたのは桑園小学校で近くには札幌競馬場がありまして、桑園駅は札幌の物流のターミナルステーションで、荷役には馬車が使われ、馬糞が道に転がっているのは当たり前前の光景でした。

昭和35年3月は、私には思いで深い月でした。その前年の年末近く、某テレビ会社が児童劇映画を撮るためのオーディションに私の学校に来て、私を含む3人が選ばれました。他の2つの小学校からも3人ずつ選ばれ、それにテレビ局の児童劇団の数人とで、キャスティングが行われ、幸か不幸か私が主役となり、年明けからロケーションで撮影が行われ、3月には撮影が終わっていました。この映画は当時の国鉄の依頼で撮られたもので、30分ぐらいの児童劇映画でした。皆さんも小学生の頃、学校に巡回映画として、体育館や図書室で観たことがある種のものでした。

ロケーションは、冬の風景は定山溪沿線の豊滝、倶知安の近くの寒別、春の場面は伊達紋別等で、急ピッチで行われました。

一応撮影は終わりましたが、音を入れることは当時の札幌ではできず、いわゆるアフレコは東京で行わなければなりませんでした。

スタッフがフィルムを持って上京することになり、ご褒美という訳なのか、主役だった私を連れて行くことになりました。上京のスタッフは監督と助監督で、いずれも女性でした。

当時航空便はなく、上京には列車で行きました。蒸気機関車です。札幌出発は夜の7～8時頃だったと思います。列車は急行「まりも」。根室発函館行き長距離列車です。今は全列車が札幌発着になっていますが、当時は根室—函館とか函館—稚内とかの直通列車がありました。「まりも」の寝台車で、

札幌を発ち青函連絡船経由で、上野着は翌日の夜。記憶では26時間ほど掛かったと思います。宿泊はホテルではなく、テレビ局の東京駐在員のお宅でした。

この頃は東京と札幌の文化のギャップが大きく、この旅行でいくつかのカルチャーショックを受けました。最初に遭遇したのは、トイレでした。水洗便所です。当時の札幌ではくみ取り式、いわゆる「ドッポン便所」が当たり前で、少なくとも一般家庭に水洗便所はありませんでした。使い方を聞けば問題ないのですが、自分で何とかしようと、便座の上に乗っかり、いつものスタイルで用を足しましたが、当然上手く行かず、却ってお手を煩わせることとなりました。

音入れの後、調整などの閑があり、東京タワーに登りました。東京タワーは昭和33年にできたもので、できてからいまだ2年も経っていませんでした。当時は高層ビルもなく、眺めを遮るものはありませんでした。下りる時は階段を使いました。590段あるそうですが、当時の私にとっては何の苦もありませんでした。東京タワーに上がったのはこの1度だけで、その後は見るだけです。

当時のタクシーはダットサン・ブルーバードで、初乗り料金は70円でした。1,000ccの初代のブルーバードで、一回り小型の日野ルノー（750cc）は初乗り60円で走っていました。タクシーはこの2種類で、この頃から日産とルノーは因縁があったのでしょうか。

お金といえば、100円硬貨が昭和33年に発行されていましたが、当時北海道ではいまだ100円は紙幣（茶色の板垣退助）が主流で、硬貨はほとんど見たことがありませんでしたが、東京では100円硬貨がほとんどで、文化の浸透の差を感じたものでした。因みに当時の物価としては、菓子パンが10円、キュウリが3本10円、ラーメンが50円でした。この時鰻重を100円で食べた記憶があります。当然消費税はありません。

今年が東京オリンピックが開かれますが、昭和35年は東京オリンピックの4年前のローマオリンピックが開催された年で、カラーテレビやインスタントコーヒーが発売されたのもこの年です。ダッコちゃんが発売されたのもこの年でした。

庚子は五行的には「金より水を生じる」年で、行き詰まったものから新しいものを生む年だそうで、チャレンジのチャンス年だそうです。

行き詰まった社会や、行き詰まった政治、行き詰まった経済、国際関係などが打開されて明るい局面を迎えることを期待したい年となることを願いたいものです。